

21世紀文明シンポジウム 熊本地震「減災と創造的復興」を開催しました(2017/2/10)

テーマ：熊本地震、防災・減災、復興東北大学災害科学国際研究所
場所：熊本市中央区、ホテル熊本テルサ

平成29年2月10日(金)、21世紀文明シンポジウム「減災と創造的復興 熊本地震の経験と教訓を踏まえて」(主催：ひょうご震災記念21世紀研究機構、東北大学災害科学国際研究所、朝日新聞社、共催：熊本日日新聞社)を熊本市のホテル熊本テルサで開催しました。昨年、東北大学萩ホールで同シンポジウムを東日本大震災5周年として企画し、今年は、昨年4月に発生した熊本地震を踏まえて開催されました。会場には、約500人が参加しました。

基調講演では、東京大学地震研究所の平田直教授が地震メカニズムと防災のあり方について話しました。また、パネル討論では、当研究所の今村文彦 所長(災害リスク研究部門)と蒲島郁夫 熊本県知事、西村博則 益城町長、熊本大減災型社会システム実践研究教育センターの松田泰治 センター長、防災司団K-plusの柳原志保 副代表の5人が参加し、議論しました。

パネル討論の中では、支援だけでなく受体制について議論があり、「受援側と支援側の双方が計画を持つべきである」「民間と連携して備蓄倉庫の確保を急ぐことが必要である」また、「震災の経験を後世に伝えるには教訓を生活に溶け込ませる工夫が必要である」などの意見も出ました。最後に、震災は常態化しており、防災は普遍的な課題と捉え直すべきだと総括されました。

「21世紀文明シンポジウム」について

http://www.hanshin-awaji.or.jp/exchange_center/index.html#21seikisimp

主催：ひょうご震災記念21世紀研究機構、東北大学災害科学国際研究所、朝日新聞社

共催：熊本日日新聞社

科学技術の粋を集めた大都市を一瞬のうちに破壊した阪神・淡路大震災を機に、これまでの物質中心の文明社会のあり方を見直し、人と自然との共生、安全・安心を優先する“災後の文明”の創造が求められています。大規模災害が多発する日本列島にあって防災・減災に関する研究成果を広く発信することにより、国民的な防災意識を高め安全・安心な減災社会の実現をめざすため、当機構と、朝日新聞社、東北大学災害科学国際研究所の三者は、防災・減災をテーマにした「21世紀文明シンポジウム」を28年度から32年度までの5年にわたって共催していくことで合意しました。平成28年6月15日、五百旗頭真 理事長、朝日新聞社 渡辺雅隆 社長、東北大学災害科学国際研究所 今村文彦 所長が協定書に調印しました。



御厨貴東京大名誉教授のコーディネートで開始



話題提供の様子

文責：今村文彦(災害リスク研究部門)